

銅水和剤 ムッシュボルドー DF	取扱メーカー： 日本曹達 原体メーカー： U P L
成分： 塩基性硫酸銅……………71.2% (銅として40.0%)	性状： 暗灰色水和性細粒, 微粒及び粗粉 毒性： 普通物 消防法： ——

【品目特性】……………

- 希釈倍数が500～1000倍で通常の殺菌剤同様の保管・輸送・希釈作業が可能。
- 有効成分である銅は、糸状菌・細菌を含む広い病原菌に対して抗菌力を示す。
- 既存のボルドー剤と同様に保護効果があり、殺菌剤耐性菌対策としても有効。
- 製剤の最適化等により安定した効力を示す。
- 有機 JAS 使用可能農薬。

【使用上のポイント】……………

- 銅剤の葉害が発生し易い条件の時は、炭酸カルシウム水和剤を必ず加用する。
- 製品により色調が若干異なる場合があるが、葉効・葉害に影響はない。

【薬効・葉害等の注意】……………

- 石灰硫黄合剤等アルカリ性薬剤との混用はさける。
- かんきつに使用する場合、発芽期以降は葉害(スターメラノーズ)を生じるおそれがあるので、葉害軽減のために炭酸カルシウム水和剤を加用する。特に果実の着生期の散布では厳守する。樹勢の弱い樹や異常気象が予想される場合は使用をさける。
- かんきつの黒点病に使用する場合、多発生が見込まれる場合は、十分な効果が得られないおそれがある。
- ゆずの幹腐病防除に100倍で使用する場合には、枝幹の病斑部に処理することとし、果実に薬液がかからないように注意する。
- ぶどうに使用する場合、果房に葉害を生じるおそれがあるので、袋かけ前には使用しない。無袋栽培では収穫まで使用をさける。袋かけ後あるいは

は無袋栽培の収穫後は葉に葉害を生じるおそれがあるので、銅に弱い品種や葉害の出やすい時期に使用する場合は、葉害発生軽減のために炭酸カルシウム水和剤を加用する。

●ももに使用する場合、収穫終了後の使用は葉害(落葉)を生じるおそれがあるので、葉害軽減のために炭酸カルシウム水和剤を加用する。

●すももに使用する場合、葉害を生じるおそれがあるので、銅に弱い品種や葉害の出やすい時期に使用する場合は事前に確認し十分注意する。

●おうとうに使用する場合、葉害を生じるおそれがあるので、必ず炭酸カルシウム水和剤を加用する。

●はくさいに使用する場合、葉害を生じやすいので次の事項に注意する。

○葉害軽減のため、炭酸カルシウム水和剤を必ず加用する。

○症状が強くなる高温時の散布はさける。

○収穫間際の散布は汚れを生じるため留意する。

●ナメクジ類、カタツムリ類には、食害防止を目的として使用する。

●キウイフルーツに使用する場合、葉害を生じやすいので次の事項に注意する。

○葉害軽減のため、炭酸カルシウム水和剤を加用する。

○黄色系、赤色系の品種では葉及び果実に葉害を生じる場合があるので生育期には使用しない。

●しょうがに使用する場合、葉害を生じるおそれがあるので、葉害軽減のために炭酸カルシウム水和剤を加用する。

●無機銅剤であるので、あぶらな科野菜、いんげん、稲、レタスには葉害を生じるおそれがある。これらの作物が周辺にある場合は飛散しないように注意する。

【安全対策上の注意】

- 蚕に対して毒性があるので、桑にはかからないよう注意して散布する。
- 誤飲・誤食などのないように注意。
- 眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意する。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼

科医の手当を受ける。

- 魚類に影響を及ぼすおそれがあるので、使用時は注意。



【適用と使用法】

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	10 a 当り 使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	銅を含む農薬 の総使用回数
ぶ ど う	べと病 さび病	500 倍	200～ 700 ℓ	—	—	散布	—
か ん き つ	幹腐病(ゆず)	100 倍	0.3～ 0.5 ℓ / 樹				
	かいよう病 そうか病	500～ 1000 倍	200～ 700 ℓ	発生前～ 発生初期			
	黒点病	500 倍		葉芽発芽前 まで			
	カタツムリ類 ナメクジ類			開花前まで			
小粒核果類 (すももを除く)	かいよう病			収穫後			
す も も	黒斑病 かいよう病 ふくろみ病			—			
も も	せん孔細菌病 縮葉病						
ネ ク タ リ ン	せん孔細菌病						
お う と う	褐色せん孔病						
マ ン ゴ ー	軸腐病	1000 倍	500～ 1000 倍	—			
キウイフルーツ	かいよう病						
ばれいしょ	疫病 軟腐病	500 倍	100～ 300 ℓ	—			
ト マ ト	疫病						
ミニトマト	斑点細菌病						
き ゅ う り	軟腐病						
は く さ い	白星病						
し ょ う が	茎枯病						
アスパラガス	腐敗病						
こんにゃく	赤焼病 炭疽病 もち病						